

『自由研修：抄録』 義歯の咬合セミナー IN 大分

(演題) 有床義歯の咬合と人工歯排列の客観的なガイドライン

超高齢社会を迎え高齢者歯科医療と共に在宅・訪問介護の歯科医療も増加傾向になって来ているようである。歯科医療ニーズの動向によると、在宅歯科医療の摂食嚥下といった高齢者歯科医療の充実が求められ、義歯の質的需要が高度化して来ています。また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化してきていると思われます。義歯製作もより簡便で、客観的な根拠から効率的な“二義的人工臓器義歯”の製作システムとなる供給体制が求められています。

義歯の咬合セミナーでは、無歯顎臨床で最も重要な要素である印象採得・咬合採得から得られた模型を分析し正確に咬合器装着を行い、客観的な人工歯排列と咬合について発表する予定です。

無歯顎補綴の仮想咬合平面の設定基準は、歯冠修復・インプラント補綴にも役に立つ咬合平面のガイドラインについても考察したいと考えています。

症例を担当する歯科医師の診査診断による治療計画を基に、歯科技工士・歯科衛生士も共有し、各ステップを慎重に進めなければならないと思います。印象体を大別すると、概形印象体と機能印象体に分類され模型上に表現された組織を十分に熟知し臨床模型の分析及び解析が重要であります。

そこで仮想咬合位 (Virtual Intercuspal Position) と仮想咬合平面 (Tentative Occlusal Plane) の考察とガイドラインが重要であります。解剖学・発生学・生理学から異なる臨床症例に対する咬合平面の設定と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮した適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式を付与することが重要であります。

最後に有床義歯の展望とデジタルデンチャーについて考察し、時間の許す限り聴講して戴いた皆様と共に有意義な講演会になれば幸いです。

(演題) 治療用義歯を用いた総義歯製作

総義歯の役割は咀嚼・発音・審美性の回復である。

治療用義歯を用いた総義歯製作では、治療用義歯床の内面に粘膜調整剤を用いる。

また、治療用義歯を用いることで、

- ・ 歯肉粘膜や義歯床縁周囲の筋肉の動的印象の採得
- ・ 審美的な確認、解剖学的大よび機能的な調和を図る
- ・ 咬合安定性の確認(顎位の決定)

などを行う。

今回は、個性的な人工歯排列法をテーマに Dr. Pound による前歯部の人工歯排列法をもとに年齢、性別などを考慮し、個々の患者様に調和するような顔貌の回復について説明する。

原田 庸人